神奈川県立伊勢原養護学校　第３回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を次のように開催した。

名称	神奈川県立伊勢原養護学校　第３回学校運営協議会
開催日時	令和５年２月 24 日（金）　９：30～11：00
開催場所	神奈川県立伊勢原養護学校　会議室
出席者	学校運営協議会委員８名　学校事務局６名
次回予定日	令和５年度　未定
問合せ先	神奈川県立伊勢原養護学校　副校長　吉田浩司 電話　0463-93-7928　FAX　0463-93-2457
議題	令和４年度　学校運営協議会 学校評価部会 ・学校評価（年間評価）について ・各学部、グループの取組について ・不祥事ゼロプログラム行動計画（最終検証） 切れ目ない支援部会
審議(会議)経過	【学校運営協議会】 ＜事務局＞ ・1 年間の取組での成果について報告し、次年度のねらいにつなげていきたい。 ＜学校評価部会＞
（小学部）	支援の精選、統一によって、児童の動きを引き出せるよう指導をしてきた。活動に合わせた言葉かけやポイントを絞って支援することで、児童にもわかりやすくなり動きを引き出すことにつながった。
（中学部）	学年を合わせた授業があるので、学年を追っての連続的な指導が難しかったが、学部全体として系統性を考えて指導を行ってきた。ICT を活用することで主体的な学びにつながった。
（高等部）	ICT の活用が進んでいる。アセスメントを教育計画に反映していくことは今後の課題である。進路に関する学習については、令和6 年度から実習の流れを変更していく。
（伊志田分教室）	職業自立に向けた取組に重点をおいて指導している。伊志田高校の体育祭や文化祭に参加させていただいて経験を広げている。2 校連絡会では、教員間の交流もできた。

（施設訪問教育七沢学園）	自分を肯定する気持ちや他者を思いやる気持ちを重視して指導をしている。道徳の時間を設けて、アンガーマネジメントや自分のよさを知ること等について学び、地域での見聞体験とリンクさせている。 ≪質疑・意見≫
＜委員＞	七沢学園に入所している子どもたちは感情のコントロールが難しい子どもが多いので、自己肯定感を育む取組はよいと思う。コロナのこともあり外に出にくい状況の中、地域と触れ合う機会を作っていただけることに感謝している。
＜委員＞	全体的にしっかり取組めている。高等部卒業のゴールに向かって小学部段階ではできることを増やすことが大切だと思う。一人ずつ特性が違うので、「なぜ」の視点で取組むのはよい。言葉かけを一つに統一することや、できたときに褒めることなど大切な取組なので今後もお願いしたい。中学部の ICT 活用は、就労するうえでも、必要な力となる。
＜教務ＧＬ(ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ)＞	（１．教務グループの年間評価） 学習内容、日課表、年間指導計画等の見直し、改善や感染症対策を講じての行事企画、個々のニーズに応じた教科書採択業務の取り組み内容と評価について説明。
＜教育推進ＧＬ＞	（２．教育推進グループの年間評価） 今年度までの研究の取組を次年度どのように組織としてつなげていくかが課題となっている。
＜総務ＧＬ＞	（３．総務グループの年間評価） 防災教育として様々な取組を行ってきたが、今後は地域と一緒に何ができるかを考えていきたい。
＜連携支援ＧＬ＞	（４．連携支援グループの年間評価） 様々な情報発信をしながら、みんなが見通しをもって進路選択ができるような支援を考えてきた。 令和６年度から進路の流れを変更するに伴い、校内実習についても見直しを行っていく。 ＜学校評価アンケートの結果について＞ ・巡回相談等、校外での部分は分かりにくいこともあって評価が得られなかった。 ・施設の老朽化については、修繕できるところから行っている。

	・行事、教育活動の拡大については、できるところから広げていきたい。 ＜不祥事ゼロプログラム行動計画（最終検証）＞ ・ヒヤリハットについては、その都度改善方法を全体に周知している。 ・職員会議後、短時間で不祥事防止研修会を実施した。次年度は、発信者について工夫をしていきたい。 ＜切れ目ない支援部会＞ ・地域や近隣の学校等と連携した。 ・成瀬コミュニティセンターより伊志田分教室に感謝状をいただいた。
＜校長＞	コロナでできなかったことが実現できるようになった。運営委員の皆様に感謝している。 ＜意見交換・熟議＞
＜委員＞	先生方が頑張っていると感じた。生徒に挨拶をしたところ立ち止まって挨拶を返してくれたことがあり、日頃の指導の成果だと感じた。
＜委員＞	小学部の取組はよい。家庭や放課後等ディサービスと情報共有して一緒に取組めるとよいと思う。 教員の業務の多さを感じるが、ICT の活用によって負担軽減になっているのか。
＜教務ＧＬ＞	iPad の活用はされているが、作成する手間はある。情報専任が配置されたことで、トラブルがあってもすぐに解決できるようになった。
＜教育推進ＧＬ＞	大きく改善はしていないと思うが、２カ月前倒しで取組むことや、会議設定を調整すること等整理されてきたこともあり効率化されている。多様な働き方の中、一定の教員に負担が偏っていることもあるが、Teams が整理され情報共有ができている。
＜連携支援ＧＬ＞	ICT の活用は進んでいるが、地域と比べると遅れていると感じる。以前より、マニュアルやルールが整理されたことで、効率よく働けるようになっている。
＜委員＞	アンケートの自由記述欄に保護者の声が書かれている。教員がで

	きたと評価していることでも保護者のできたの評価は以前より減っている。業務が多い中だが、保護者の声の改善策を考えてほしい。
＜委員＞	コロナで、PTA の行事も実施できなかったが、保護者対象の勉強会を実施した。よい機会だったので次年度も計画していきたい。令和６年度は研究発表の担当になっているので、地域の皆様に協力をお願いすることがあるかもしれない。
＜校長＞	評価をその通りと思う一方で、「学校できちんと伝えきれていないのでは」と思うところもある。情報発信や学校に関心を向けてもらうための取組を考えていかなければと思う。
＜委員＞	地域としてかかわっている。伊志田分教室の生徒に掃除の仕方を教えてもらう取組は、児童からも好評で分教室生徒の自己肯定感につながっているのではないか。巡回相談では、今後、自分たちでケース会を開いて支援につなげていけるということが分かったが、巡回の際には特別支援の専門的な話も聞きたい。
＜校長＞	学校運営協議会は、地域全体で学校環境を考えていく場である。以前は、学校評価が中心だったが地域の中で育っていくために地域として何ができるかを考える会である。
＜委員＞	地域で子どもを育てるという意味でも、切れ目ない支援が大切だと感じた。支援を必要とする子どもたちが増えている中、支援級の在り方や教員にノウハウを伝えることが課題だと感じている。市教育委員会として、教員の研修の必要性を感じている。
＜委員＞	呼称について、学校ではどのようになっているのか。県内で差があるのか。
＜校長＞	神奈川県では、原則「さん」づけとなっている。
＜委員＞	卒業式でのマスクの着用はどうするのか。
＜校長＞	神奈川県の通知では、「協力をお願いする」や「促す」という文言になっている。
＜委員＞	伊勢原市は文科省の通知に沿った形になっている。基本的にマスクは外して参列することになる。（強要はしない）保護者にはマスクの協力をお願いする。

＜校長＞	県立学校の中には肢体不自由教育部門があるので、合わせた判断になる。そのため、学校判断ということになるのではないか。 〇事務連絡 今年度の学校運営協議会は、今回で終了です。 次年度については改めてお願いをします。
＜校長＞	本日はご意見ありがとうございます。 学校運営協議会では、学校の教育活動に参画してもらうことが大切である。３つの部会のうち、防災部会については、今後の課題である。 卒業式の来賓は招待しない方針だが、運営委員の皆様には学校関係者として参列をお願いしたい。